

Special Interview

スタッフの生の声を聞くインタビューコーナー。
どのような経験を経て今に至り、
現在、どのような思いを持っているのかを聞いてみました。

学生さんには、
「迷わず、進みましょう」「って
言いたい(笑)

デザイナー・絵画教室講師

佐久間 友里

SAKUMA YURI

千葉県在住のグラフィックデザイナー。株式会社サウザンドデザインにて、月刊の通販雑誌を担当。PCを使ったデザインはもちろん、手書きのイラストも積極的にデザインに取り込み、温かみのある生き生きとした作品を仕上げることに定評がある。絵画教室では主に子供向けクラスを担当し、厳しくも優しいスタイルで親しまれている。



進路は自分の置かれた 状況から導き出された

編：今日はよろしくお願ひします。
佐久間：よろしくお願ひします。

編：ではまずは経歴を教えてください。
佐久間：中学校を卒業して、普通高校からデザイナーの専門学校へ行きまして。そこは千葉県内でほぼ唯一のデザイン学校です。グラフィックデザインを専攻しました。

編：デザインの勉強をしたと思ったきっかけがありますか？
佐久間：小さい時から絵を描いたり、物を作るのが好きだったので、その特性を活かせる仕事があったのです。**編**：美術大学ではなく、専門学校を選んだ理由はなんですか？

佐久間：私は千葉県に住んでいましたが、当時は実家から離れた学校へ通うイメージがなくて、住んでいる地域から自然にその学校を選びました。(東京都内の西に多い有名美大の受験というのはあまり現実的ではなかったです。また、専門学校の学費は2年間で200

万くらい。私立の美術大学ですと卒業までに1,000万円ほどかかるため、経済的な面でも美大というのは選択肢にありませんでした。

編：よく学費以外に画材を自費で購入する、といったイメージがありますが？
佐久間：私の場合はグラフィックデザイン専攻というのもあってか、学校では画材を自分で買った必要はほとんどありませんでした。Macでイラストレーターやフォトショップを使い始めたのは専門学校へ入ってからでした。それまではソフトのこともよく知らなかったくらいです。とはいえ、制作環境は自宅にあった方がよいと思ひ、Macや必要なソフトは購入しましたね。

編：進学に関して反対されたことや苦勞はありましたか？
佐久間：両親は「好きなことをやりなさい」と勧めてくれましたし、高校で推薦をもらったのでいわゆる受験はなく、大変と感じたことはありませんでした。

学校は楽しかった

編：専門学校はどうでしたか？
佐久間：学校での勉強は楽しかったです！電車の中吊り広告を自由に作ったり、オリジナルの雑誌を企画から考えて作ったり。好きだったものづくりを高いレベルで行うことができました。グループワークもありましたが、ひとりで制作する方が好きでしたね。

編：グループは苦手？
佐久間：苦手というか、私はグループを仕切るタイプではなかったので、メンバーのバランスを考えて動くことに注力しちゃうようです。作品を作ることににおいては、自由に思い切り表現できる個人の方が好きでした。
編：その学校ではどんな進路に進む人が多かったのですか？
佐久間：専門学校からは、自分の周りでは印刷会社やWeb関係、グラフィックデザインへ進んだ人が多かったです。一般職に行った人はそれほど多くはなかったように思いました。

編：佐久間さんの卒業後は？
佐久間：私は卒業後、アパレルの会社に就職しました。というのも、服の柄やポスターなどのデザインがメイン、といった募集だったので、服が好きだった私に向いているのではないかと思ったからです。無事に入社できたのですが、デザイン仕事がない期間は、企画の仕事などとしていました。不思議なもので、しばらくデザインから遠ざかると、勉強していた時間の方が長いのに、知識や技術がどんどん抜けてしまっている自分に気づき、「これではいけない」と思ひ、現在の会社に応募しました。

編：それは正解でしたか？
佐久間：はい、求人票を見たときに「基礎から教えてくれる」とあったのが決め手でした。もちろん基礎はあるつもりでしたが、人を育てる風のある会社に身を置きたいと思ったからです。
編：実際に仕事をしていてどうですか？
佐久間：学生の時と違い、自分の作品を作っているのではなく、お客さまのために制作している、というのを常に意識させられます。お客さまの要望にしっかりと応えられているかな？という不安は常にありますね。でも、難しい課題があっても、そのリクエストに応えていく中で、新しい技術が身につけると実感できます。最近特に、自分なりにデザインができたと思うときの達成感が嬉しいです。お客さまにもそれが認められると、喜びもひとしおですね。

振り切っちゃって大丈夫

編：今後の目標はありますか？
佐久間：そうですね。まずは失敗を減らすこと。そして他の雑誌などを見ながら勉強しているのですが、今よりもさらにデザインに幅を持たせたいと思っています。

編：切磋琢磨している姿は素敵ですね。進路のことで悩んでいる若い人たちにアドバイスはありますか？
佐久間：もし思い切った進路に舵を取れない、という人がいたら、「問題なし。迷わず、やりたいことへ向かって進みましょう」と言いたいです。美術系の専門学校へ行っても、就職にダイレクトに繋がるとは不透明と言われていますし、実際私もそう言われましたが、特に不安はありませんでした。私を含め、みんなそれなりに社会へ羽ばたいて行きましたし、少しでも興味があるのなら、勇気を出して一歩踏み出すことが大事だと思います。

編：今日はどうもありがとうございました。

佐久間さんにデザインを頼みたい方は
ご依頼の際、「佐久間さん指名」と
お書き添えください。